

# 山岳友の会会報

2016年4月 第21号



撮影：荻野秀夫

## も く じ

第24回現地研修会報告『絶好な日和の野麦峠』細萱 繁	2
2016年度通常総会報告 小林久雄	3
2016年度通常総会資料	4

## 絶好な日和の野麦峠

もう 24 回も重ね、様々な地を巡れる現地研修会、今回は乗鞍高原に泊まって、厳冬の野麦峠スノートレッキングであった。雪山歩きの楽しみを抱き、喜び勇んで出掛けた。まずは設営幹事に感謝である。

乗鞍活動の拠点、乗鞍ステーションには、14 時過ぎ各々の足で 12 名が勢揃い。驚くほど少雪である高原と共に、何時になくこじんまり。食卓は車座にすることができた。いつもの様に、自然に役割分担が仕切れ、寝床の準備、食事の下拵え。ストーブを囲んで団欒等、地元民である乗鞍観光協会宣伝部長、中原由紀子さんの講話を待った。番所にあるペンションを営む女将さんである。



日光出身、実家は神奈川。大学ではピアノを習っていたが、なぜ乗鞍高原に居着くようになってしまったのかからお話が始まった。苔(乗鞍岳溶岩台地)と点在する滝の魅力、その香りや気候といった自然のとりこになってしまい、卒業後も3年間、この地に通い続けたとのこと、こうしてここで伴侶に出会い、“あれから40年”だそうだ。ペンションを開業し、ピアノ教室、アルプホルン(マウスピース)を奏で、取り分け高齢者スキーヤーを招き、気ままに生活を支えた様子。ところが、今や観光客・スキー客は激減し、乗鞍病時代。少子化の限界集落になってしまい、ここの大野川小中学校(乗鞍高原・白骨・沢渡地区が通学区域)の児童生徒は何と20人もいない極小規模校になっている。住民が減っても、せめて自然を売れる観光業は維持しなければと、「おかみさんの会」を結成した。意欲ある女仲間で誘客のために、高原のマップ小冊子を作り、遊歩道整備に汗を流すことにした。こうした山野を巡るのには、バイオトイレ設置が必要と体得したものの、管理の大変なことが分かり、携帯トイレ持参を図ることに変えた。補助金を得て、散策路脇12ヶ所にブースを設置する計画を進めており、この処理は家庭菜園の肥料に活用しようと有機的な循環に繋がたいと考えている。来訪者には、自然の恵みをたっぷり堪能してもらえよう、環境整備に奮闘中である。更に、乗鞍岳の利活用にも思いが及んでいるものの、県境によって長野・岐阜両県の異和感を見せ付けられてしまって困惑。皆の山岳であるのだから、占有を止める環境にして欲しい等々…。「乗鞍高原の魅力」を熱く語って頂き、感銘してしまった次第。

我々も乗鞍を利用するだけでなく、山に魅了された仲間として“遊歩道整備作業”に参画しなければと感化されてしまった。是非、早速に今初夏には、この行事を企画して欲しいと思い詰めてしまったが、いかが？

外湯に出掛ける人、調理に励む人に分かれ、次は鍋を囲んで夕食懇親会だ。明日の昼食用の豚汁を一旦煮込み、並行して具沢山の肉・魚鍋も出来上がり、外がまだ明るいうちに開宴となった。いつものこと、取り留めのない話題に花が咲き、たっぷりと頂戴した。最後には2人だけになってしまったが、何と深夜まで男の語らいに更ってしまって寝不足。

風も雲も無い、穏やかな好天の朝を迎えた。朝食・清掃・記念撮影を済ませて30分遅れの8時半、奈川に向けて出発。途中、今日の先導・昼食設営役、奥原さん親子に合流。3台に乗り換え、登山口(冬期通行止ゲート)へ移動。

昼食の豚汁の具材はタッパ、汁は一升ビン2本に、そしてアルコールを程々、皆でリュックに詰め分け、ここから3km(半分強は自動車道を、その先が旧街道の峠道)、野麦峠の標高は1,672m であるから、標高差600m程だろうか。登り3時間の行程に、スノーシューを付けた10人隊列が進み始めた。晴天であるが、冷え込みが緩まず、顔と耳に痛さを感じ



ずる。途中、自動車道脇には、街道の避難石室、“源”と呼ぶ平成の櫛植林地、峠道では“力水”が、幕府直轄地であったため森林が守られてきたものの、昭和初頭までに伐採され尽くし、今や立派に育つカラマツ林を、無風・青空の下、日差しを浴びつつ、足跡は確かめられるが、昨夜の薄ら積雪で一面白銀の世界を喘ぎながら登り詰めて、野麦峠に行き着いた。

まずは、“女工衰史の糸引き街道、富山湾で捕れた塩漬け鰯が運ばれた鰯街交易路”の峠、お助け小屋、資料館等岐阜県側に建つ施設は風雪で埋もれてはいたが、目前に聳える乗鞍高原を望め、白銀の地に一番乗りで到着できた風景に感動。地元ならではの奥原さんの案内話に聞き入った後は、峠直前の日留り場に戻って担ぎ上げた鉄鍋をセットして薪で熱い豚汁を用意してもらう間、峠の先の展望台に建てられた慰霊碑まで足を延ばした。一段高い頂にあつたので、展望は一際素晴らしい。

冷え切ってしまった“おにぎり”と、熱々の豚汁だが、立ち止まっていると、次第に体が冷えてきてしまった。満腹に満足しながら、下山。皆足取りは、スタコラ軽快だ。峠道を下り切った先で、右に折れてわさび沢牧場を横断。何も無い雪原に出ると微風であっても粉雪が舞い上がる。小高い尾根を乗り越えて、次の清水牧場へ。雪山であるから、目標さえ定まれば一直線に移動できる。ここは、遠来の方が高級なチーズ作り凝った工房と、牛・山羊・羊を飼育する開発したばかりの広大な牧場なのだ。こんな雪道の奥地に関東ナンバーが駐車していた。ネットによる宣伝が行き渡っていると感心する。



売店に入って濃厚なミルクをご馳走になる。“ああ野麦峠”ああ美味しかった。一息入れて、除雪された林道を辿って、出発地のゲートに着いたのは、午後3時過ぎであつた。約6時間、心洗われる山旅を味わえた満足感と、再々の感謝の念が湧き上がってきた。楽しかった新鮮な思い出を胸に、野麦峠を後にした。

細萱 繁

## 2016 年度通常総会報告

設立6年目の 2016 年度信州大学山岳友の会の総会は、4月2日に松本市駅前会館で事業計画や収支予算などを熊谷議長の計らいで無事に終了しました。（参加 25 名、委任状 75 通）

5月には「中央アルプス千畳敷を訪ねる」第25回の現地研修会から予定され、年間5回の現地研修会を予定します。「岳問のすすめ」や上高地談話会(湊沢談話会)に夏・冬の子どもキャンプも計画します。

6年目以降の「友の会」について、多くのご意見も頂きました。

- 安全登山を考える研修会(携帯トイレ利用)などの提案
- 徳本峠道の普請協力の継続提案（乗鞍高原の女将さん活動支援の先遣隊活動）
- 子どもキャンプの具体的計画の打ち合わせ要望
- 多くの会員の研修会参加の働きかけ（安全で楽しい研修会の具体化）

10年目に向けて更に充実した活動を目指して会員のご協力をよろしくお願い致します。

総会後に小竹亭で恒例の交流会で更に盛り上がり誓いを新たにしました。

小林久雄

次に総会資料を添付します。

なお、監査により、収支決算について適正に処理が行われていることが確認されました。



## 2015 年度信州大学山岳友の会事業報告

設立 5 年目の 2015 年度は、会の運営も軌道に乗り、様々な事業をほぼ計画通りに開催することができました。以下、主な事業について報告します。

### ○総会

通常総会、4 月 5 日(日)、Mウイング、42 名参加 (委任状 89 通)

### ○運営委員会

第 10 回運営委員会、3 月 22 日(日)、神谷圭子氏宅、15 名参加

### ○憧憬の森講演会

第 7 回憧憬の森講演会、4 月 5 日(日)、Mウイング

「山に生かされて」、講師：丸山祥司氏

第 8 回憧憬の森講演会、12 月 19 日(土)、信州大学理学部

「私はこんな海外登山をした」、講師：酒井國光氏

### ○現地研修会

第 19 回現地研修会、5 月 23 日－24 日「北信濃 鍋倉のブナ林と秋山郷を訪ねる」23 名参加

第 20 回現地研修会、6 月 20 日－21 日「涼を誘うシノブ玉作りと乗鞍の名瀑をめぐる」13 名参加

第 21 回現地研修会、8 月 28 日－30 日「霊峰白山と氷見を巡る旅－山と海は友だち－」23 名参加

第 22 回現地研修会、9 月 26 日－27 日「さらさら越えの針ノ木峠」12 名参加

「針ノ木峠、針ノ木小屋」、講師：百瀬 堯氏

第 23 回現地研修会、10 月 17 日－18 日「秋の味覚を楽しむ会 (秋の大人のキャンプ)」18 名参加

「上高地の国有林」、講師：梶澤義継会員

第 24 回現地研修会、2 月 6 日－7 日「冬の野麦峠スノートレッキング」12 名参加

「乗鞍高原の魅力」、講師：中原由紀子氏

### ○会員集会、12 月 19 日(土)、信州大学理学部、25 名参加

### ○上高地・乗鞍キッズキャンプ、8 月 5 日－6 日、キッズ 26 名、会員スタッフ 10 名参加

### ○第 21 回上高地談話会、6 月 13 日、信州大学理学部、

「上高地におけるイワナとカワマスの種間交雑」、講師：長野県環境保全研究所 北野 聡氏

### ○第 22 回上高地談話会 (第 6 回涸沢談話会)、7 月 8 日－9 日、涸沢ヒュッテ、34 名参加

「上高地周辺の地震と火山」、講師：京都大学防災研究所 大見士朗先生

### ○会報の発行、4 回発行 (7 月 21 日、10 月 1 日、11 月 1 日、1 月 8 日)

### ○信州大学・読売新聞社共催の連続講座「岳問のすすめ」に会員随時参加

### ○上高地ステーションの整備を実施、随時

# 2015年度信州大学山岳友の会収支決算報告

収 入			支 出		
繰越金		¥530,664 ……①	管理費	DM便・郵便	¥91,292 ……⑥
会費			事業費		
正会員	110 名	¥330,000	現地研修会19		¥323,820
家族会員	6 名	¥30,000	現地研修会20		¥92,106
学生会員	0 名	¥0	キッズキャンプ		¥129,129
賛助会員	11 口	¥110,000	現地研修会21		¥796,255
賛助会員(過年度)	1 口	¥10,000	現地研修会22		¥129,533
年会費 計	128	¥480,000 ……②	現地研修会23		¥67,977
事業費			現地研修会24		¥47,972
現地研修会19	21 名	¥325,000	事業費 計		¥1,586,792 ……⑦
現地研修会20	13 名	¥104,000	会議費	2015年度総会会場代他	¥4,338 ……⑧
キッズキャンプ	26 名	¥52,996	報償費	総会時講演会謝礼	¥10,000
現地研修会21	23 名	¥805,000	現研⑩講師謝礼		¥10,000
現地研修会22	12 名	¥132,000	報償費 計		¥20,000 ……⑨
現地研修会23	18 名	¥72,000	その他	現研⑩バス運転手謝礼	¥2,000 ……⑩
現地研修会24	11 名	¥46,000			
		¥1,536,996 ……③			
その他 涸沢談話会残金		¥10,500 ……④			
収入合計 (①～④合計)		¥2,558,160 ……⑤	支出合計 (⑥～⑩合計)		¥1,704,422 ……⑪
差引残高		¥853,738			
		¥9,000 2016年度会費(正会員3名)			
		¥7,000 次年度現研参加費一部として預かり			
		¥869,738 3.31現在残			

## 2016 年度信州大学山岳友の会事業計画（案）

### 基本方針

友の会は設立 6 年目を迎えますが、次の基本事項に基づき事業を計画します。

1. 信州大学の山岳研究を支援します。
2. 会員相互の親睦と、心を豊かにする講座・研修会並びに講演会を開催します。
3. 自然の中で子どもたちの豊かな感性を育てる取り組みを進めます。
4. 大学と市民を結ぶ取り組みを考えます。
5. 会員を増やし、会の活動を充実します。
6. 会報は、会員の協力をいただき 4 回発行します。

### 事業計画

期 日	内容等	対象者	備考（場所等）
4 月 2 日(土)	通常総会	会員	松本市駅前会館
5 月 21 日(土)・ 5 月 22 日(日)	第 25 回現地研修会 「中央アルプス千畳敷を訪ねる」 講師：小川清美氏・森川 優会員	会員	ホテル千畳敷
5 月 28 日(土)	岳問のすすめ「山に登った虫たち」中村寛志先生	会員他	信州大学理学部
6 月 11 日(土)・ 6 月 12 日(日)	第 23 回上高地談話会 「横尾山荘事情」山田 直会員	会員	横尾山荘
7 月 7 日(木)・ 7 月 8 日(金)	第 24 回上高地談話会(第 7 回涸沢談話会) 「北アルプスの周氷河環境」 高橋伸幸先生(北海学園大学)	会員	涸沢ヒュッテ
7 月 30 日(土)	岳問のすすめ「世界水準の山岳高原観光地づくり を目指して」山崎明氏(長野県環境部自然保護課長)	会員他	信州大学理学部
8 月 4 日(木)・ 8 月 5 日(金)	こどもキャンプー夏	こども	乗鞍 ST
8 月 29 日(月)・ 8 月 31 日(水)	第 26 回現地研修会 秋田駒ヶ岳と乳頭温泉 (先着 25 名)	会員	2 泊 3 日
9 月 10 日(土)	第 27 回現地研修会 カクネ里大雪渓を遠望する	会員	遠見尾根日帰り
10 月 22 日(土)・ 10 月 23 日(日)	第 28 回現地研修会 青崩峠&南信濃の“ふぐ”	会員	遠山郷かぐら山荘
10 月 29 日(土)	岳問のすすめ「山岳に生きる建築の話：山小屋の建 築史」梅干野成央先生	会員他	信州大学理学部
11 月 19 日(土)・ 11 月 20 日(日)	第 29 回現地研修会 蓼原から鳥居峠越えて奈良井宿	会員	奈良井荘
12 月 3 日(土)	憧憬の森講演会及び忘年会	会員	松本市駅前会館
1 月 28 日(土)	岳問のすすめ「信州の山が育む生物多様性」 須賀 丈氏 (長野県環境保全研究所主任研究員)	会員他	信州大学理学部
2 月 4 日(土)・ 2 月 5 日(日)	第 30 回現地研修会 「北穂小屋とスキー人生」次田経雄氏	会員	乗鞍 ST
2 月 18 日(土)	岳問のすすめ「山岳映像撮影に挑んで～穂高を描 いて 25 年」宮田八郎氏 (山岳映像作家・穂高山荘 小屋番)	会員他	信州大学理学部
3 月 23 日(木)・ 3 月 24 日(金)	こどもキャンプー冬	こども	乗鞍 ST

## 2016年度 友の会 収支予算(案)

収入の部

(円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	増 減	備 考
繰越金	853,738	530,664	323,074	前年度繰越金
会費	474,000	480,000	△ 6,000	正 会 員:110名 330,000 家族会員:6家族 30,000 学生会員:8名 4,000 賛助会員:11口 110,000
事業参加費	1,790,000	1,536,996	253,004	第25回:15名 300,000 第26回:25名 750,000 第27回:20名 40,000 第28回:15名 300,000 第29回:15名 300,000 第30回:15名 60,000 子供キャンプ夏:20名 20,000 子供キャンプ冬:20名 20,000
雑収入	305	10,500	△ 10,195	他行事から
計	3,118,043	2,558,160	559,883	

支出の部

管理費	130,000	91,292	38,708	メール便等 80,000 消耗品費 50,000
事業費	2,550,000	1,586,792	963,208	会員研修会6回 2,150,000 こどもキャンプ 400,000
報償費	90,000	20,000	70,000	講師謝礼:2回 40,000 研究褒賞費 50,000
会議費	20,000	4,338	15,662	総会 10,000 講演会 10,000
予備費	328,043	2,000	326,043	
計	3,118,043	1,704,422	1,413,621	

## ♪ 友の会替え歌 ♪

「靴が鳴る」 清水かつら作詞・弘田龍太郎作曲 替え歌こぼ Q

お手(てて)つないで 野道を行(ゆ)けば  
みんな可愛(かわ)い 小鳥になって  
歌をうたえば 靴(くつ)が鳴(な)る  
晴れたみ空に 靴が鳴る

橋を渡って 本谷行(ゆ) けば  
口笛嬉しい せせらぎ涼し  
歌をうたって 友の会  
涸沢カールに 友の会

花をつんでは お頭(つむ)にさせば  
みんな可愛(かわ)い うさぎになって  
はねて踊(おど)れば 靴が鳴る  
晴れたみ空に 靴が鳴る

仰ぐ北穂に 花道行(ゆ)けば  
前穂吊り尾根 涸沢カール  
雲湧く奥穂に 涸沢カール  
歌をうたって 友の会  
(ゆったりと 堂々と Enging)  
♪ 涸沢 カールに 友の会 ♪



撮影：荻野秀夫

信州大学山岳友の会会報 第21号

発行日：2016年4月12日

発行：信州大学山岳友の会

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学山岳友の会事務局

FAX：0263-37-2438

E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp